

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2471200309
法人名	有限会社 希ぼうの里
事業所名	グループホーム ホコホコ
所在地 (電話番号)	伊賀市依那具1004 (電話) 0595-23-7389
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 10 月 5 日(金)

【情報提供票より】 (H19年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	33,600 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	210 円	昼食 367 円
	夕食	472 円	おやつ 105 円
	または1日当たり 1,155円		

(4) 利用者の概要(8 月 31 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1		名	要介護2 2 名
要介護3	5 名		要介護4 2 名
要介護5		名	要支援2 名
年齢	平均 83 歳	最低 65 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鳴地医院 まついけ歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな山なみ・鎮守の森・案山子…。自然豊かな田園地帯を忍者が描かれた可愛い電車が時々通る。四季を体感できる恵まれた環境に位置している懐かしい雰囲気、玄関までのアプローチには犬小屋(愛犬ホコちゃん)や季節の草花・手入れの行き届いた庭には座り心地の良いベンチ、建物は明るく随所に工夫があり暮らしやすい雰囲気を有している。地域福祉に熱意をもって取り組んでいる運営者のもと職員も理念「いつのときもその人の心(想い)に寄り添う支援」を共有し、19年度のホコホコの基本目標「心かよう言葉と笑顔」を実践している。利用者一人ひとりの希望や意見を尊重して散歩や外出等の支援を行い、外出を好まない方にも庭先での花火やお月見等々…。楽しみごとが多い事業所である。『お米も野菜もここで採れたものだから美味しいよ』と調理をする利用者で見守る職員の会話は楽しく、穏やかで優しい風が流れている大家族のような明るい事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目(運営理念・相談窓口の明示の工夫、ヒヤリハット認識の大切さ)は直ぐにきちんと工夫され取り組まれていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者はじめ管理者・全職員、調査の意義・目的をよく理解して全職員で自己評価に取り組み課題の検討・改善に努めている。評価を生かした改善への取り組みの意欲が高い事業所である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族・伊賀市地域包括支援センター・伊賀市介護保険課・ボランティア・職員などの出席で2ヶ月に1回開催されており議事録も作成されている。地域密着型サービスの事業所としての取り組みや活動報告および地域との交流のあり方についての意見交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホコホコ通信や家族会などで常に、現状を報告し、少しでも家族が苦情・要望・意見を言いやすいように配慮している。また家族の訪問時何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。それらからでた意見などは運営に反映させている。(調査員訪問時にも多くの家族の訪問があり、楽しい雰囲気であった。)
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	組集会・地域のイベント・祭り・子供みこしの応援など地域の行事などには積極的に参加している。また小学生や中学生の訪問や夏休み福祉体験学習や職場体験実習の場として提供もあり、つねに地元の人々との交流に努めている。(運営者に地元から民生委員や農家組合長の要請もある。)

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『いつのときもその人の心(想い)に寄り添う支援』を事業所の理念の柱としている。その上で『家庭的な環境と地域住民との交流の下で支えていくこと』とし具体的なイメージを持って地域密着型サービスの意義を職員全員で確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員採用時の新任者研修や毎月の全員参加のミーティング時に共有し、利用者一人ひとりが安定した気持ちで生活の質を高めていけるように取り組んでいる。事業所内に『明るく心休まるホーム作り推進グループ』をつくり、19年度の基本目標は『心かよう言葉と笑顔』としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	組集会・地域のイベント・祭り・子供みこしの応援など地域の行事などには積極的に参加している。また小学生や中学生の訪問や夏休み福祉体験学習や職場体験実習の場として提供もあり、つねに地元の人々との交流に努めている。(運営者に地元から民生委員や農家組合長の要請もある。)		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員が理解しており、全職員で自己評価に取り組みサービスの質の確保に活かしていく姿勢がある。(「改善計画シート」を作成して実践している。)		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族・伊賀市地域包括支援センター・伊賀市介護保険課・ボランティア・職員などの出席で2ヶ月に1回開催されており議事録も作成されている。地域密着型サービスとしての事業所としての取り組みや活動報告および地域との交流のあり方についての意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は福祉体験教室や職場体験実習の受け入れや活動報告・相談時などで伊賀市との連携作りに努めている。	○	地域密着型サービスに対する地域の理解や浸透の低さなどを改善し、地域の人たちの声やサービスの必要な利用者が有意義に利用できるシステムづくりを伊賀市と協力して確立していくことを課題として取り組まれることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホコホコ通信」を作成し、利用者の暮らしぶりを定期的に報告をしている。また、家族の訪問の都度や家族会開催時など一人ひとりに合わせて健康状態や金銭報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話や手紙また訪問時に常に問いかけ、どんなことでも言ってもらえる雰囲気作りをしている。出された意見や要望はサービスの質の向上に反映している。(調査員訪問時にも多くの家族の訪問があり楽しい雰囲気でした。)		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代がある場合は十分な引継ぎを行い、利用者へのダメージが極力すくなくなるように配慮し馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で新任者教育と認知症ケア研修を実施している。また、職員の段階に応じて外部の研修会や講習会に積極的に参加している。さらに資格取得など、個々の目標に向かって勉強できるように支援している。(資格取得に伴う研修費用の全額事業所負担の奨励金制度もある。)		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会の会員として幅広い情報を得ながらサービスの質の向上につなげている。伊賀市の開催する地域ケア会議への参加や他の事業所との交流や情報交換に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人にはできるだけ事前の見学を進めるなど時間をかけて雰囲気に慣れてもらい、他の利用者や職員と顔見知りになってもらうことに努めたり、体験入居をしてもらうこともある。	○	いきなり入居になるのではなく、利用者の安心につながるように認知症対応型通所介護・短期利用共同生活介護の開始ができるように現在検討・準備中であり実現を希望する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事は事業所内の畑で取れた野菜を季節ごとに利用者からも教えてもらいながら作り、献立の一品とするなどの楽しみごとになっている。毎日の散歩や掃除など職員・利用者ともに喜怒哀楽の共有や利用者自身の意見を出せる場面作りの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にできるだけ寄り添い意志の疎通を図りながら日々の表情や行動から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	正職員4名が1～2名の利用者を担当する担当制を採用しており、全員ミーティングでの意見を踏まえ常に気付きや意見交換、本人や家族の要望等を反映した介護計画を作成し職員全員で共有して介護に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティング(全職員参加)で介護計画に基づく支援の状況の確認と課題の検討を行い、期間中でも必要に応じて計画の見直しを行い、家族の意見も聞きながら介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の暮らしの中で必要とされることは利用者や家族の意向に添って全て対応や支援を行っている。(全ての受診・通院や墓参りなど事業所の多機能性を十分に生かした柔軟な支援が行われている。)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関の受診を事業所が支援している。常に代表者が同行し、医師からの話や注意事項を日常の生活の適切な支援に役立てている。(事業所の提携医による月に1回の定期往診もある。)		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームホコホコ医療連携体制として明記されている。重度化した場合における対応としてご家族の意思確認や事業所の指針が確立されており、職員チームを立ち上げ医師の診断や指導に基づき可能な限り終末ケアを行う事としている。	○	事業所のできる事・できないことをみきわめて取り組むべき課題を明確にしていく予定がある。職員の安心のためにも整理して取り組まれることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が利用者一人ひとりの誇りや人の尊厳を尊重しながら接している。また個人情報保護についても良く理解して支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「皆さんのいろんなこと教えてね」のシートを活用し、前向きに出来ること、ゆったり出来ることを日課を設けず気持ちよく暮らせるように、利用者一人ひとりのペースを大切にして日々のその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材(事業所の田・畑で収穫された)の下ごしらえなどを利用者と職員と一緒にしている。「ここのお米と野菜は美味しいからまた食べにおいで」と利用者から調査員に声かけがある楽しい食事風景でした。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全の為に2名の職員がサポートし、利用者一人ひとりの意向をたいせつにして、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。(あまりお風呂を好まれない方もあり、近くの温泉や足浴なども利用している。)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて支援をしている。(庭や畑で四季の草花や野菜を育てたり、掃除や料理など職員を生徒にして経験を発揮する場面を作っている。)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候がよければ、日常的に戸外に出かけている。一人ひとりの脚力や意向に添って住み慣れた町へのドライブや自宅訪問・お墓参り・四季折々のイベントやお祭りなど個々の希望を聞き取り、普段行きにくいところにも支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りを強化し、日中は玄関やその他の出入り口や窓の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。また近隣の方にも理解をもらい、見守り、声かけや連絡をもらえる関係を築いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回 避難訓練を行っている。(今年は6月の運営推進会議の開催に合わせて伊賀市消防本部の指導で火災・地震・水害時などに適切に対応できるように避難訓練が行われていた。)	○	年1回消防署の協力を得て避難訓練を行っているが、夜間の災害を想定した訓練の実施等実際の災害時に、地域の人々との協力が得られるように日ごろから取組まれることが期待され、また災害時に備えて水などの備蓄も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの健康状態・主治医の指導・配慮すべき内容・食事形態・好き嫌いなどを一覧表にして支援している。介護記録にその日の食事摂取量を記録し、水分摂取量も把握し、支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは可愛い花々や草木で季節感を採り入れており、だれでも安心して訪問しやすい家庭的な雰囲気作りの工夫がある。また共有空間には畳敷きのスペースやテラスがあり居心地良く過ごせる工夫が随所に見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの居室に仏壇や使い慣れた物品、居心地よく過ごせる工夫がある。家族の訪問時には居室で湯茶・菓子など個々の楽しみ方をしている。		